

No.45

2005 春季号



第16回 設立記念会

CONTENTS

第14回AACA賞・第3回芦原義信賞	2
総評	3
第14回AACA賞作品	4・5
第3回芦原義信賞作品	6・7
京都北山・美山景観シンポジウム	別冊
会員投稿ページ	8

社 団 法 人
日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会

第14回AACAA賞・第3回芦原義信賞

aaca

日本建築美術工芸協会

2005春-2

AACA賞

- ・作品 今治地区火舞場 すいふう苑
- 受賞者 ㈱佐藤総合計画
吉田諒旬、井下に史

AACA賞 特別賞

- ・作品 みなとみらい線
街との一体化を図った駅空間・デザイン
- 受賞者 横浜高速鉄道株式会社
代表取締役社長 岸田道則

AACA賞 奨励賞

- ・作品 原町市民文化会館
建築空間に於けるアートワークス
- 受賞者 ㈱ジープランニング
代表取締役 永野久美子

AACA賞 入選

- ・作品 アクアマリンふくしま
作者 浅石 優、篠崎 淳、東 正典、田瀬理夫
- ・作品 笠間芸術の森公園「陶の杜」
作者 茨城県+東京ランドスケープ研究所+
グループ・マジシャンクレー
- ・作品 「ミュザ川崎アートワーク」
作者 独立行政法人都市再生機構神奈川地域支社、
六鹿正治(日本設計)、福田卓司(同)、雨宮功(同)、
清水敏男(TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE)、
中村衣里(同)、アニッシュ・カプーア、
フロリアン・クラール、デルフィーヌ・コワンデ、
ヘリ・ドノ、土屋公雄、鴻池朋子、アートプレイス
(本体設計:松田平田設計、大成建設)

芦原義信賞

- ・作品 安曇野高橋節郎記念美術館
- 受賞者 ㈱プランツアソシエイツ
代表取締役 宮崎 浩

芦原義信賞 奨励賞

- ・作品 聖ヨゼフ学園 京都暁星高等学校
- 受賞者 ㈱竹中工務店 大阪本店
設計部 宮城淳一・大平滋彦

芦原義信賞 入選

- ・作品 新宿御苑トイレ増築工事
作者 ㈱石本建築事務所 原 健一郎
- ・作品 LANVIN BOUTIQUE GINZA
作者 NAP建築設計事務所 中村拓志
- ・作品 青山学院大学相模原キャンパス
作者 ㈱日建設 浜田明彦・土屋 潔
- ・作品 国立トラंकルーム
作者 ㈱竹中工務店 東京本店
設計部 大日方淳夫、高嶋一徳

AACA賞・芦原義信賞選考委員会

審査委員長	仙 田 満
審査委員	会 田 雄 亮
〃	加 藤 貞 雄
〃	松 本 哲 夫
〃	小 林 治 人
ゲスト審査員	工 藤 和 美
〃	古 谷 誠 章



第14回AACA賞・第3回芦原義信賞

aaca

日本建築美術工芸協会

2005春-3

総 評

審査委員長 仙田 満
(環境建築家・
東京工業大学大学院教授)



<AACA賞>

AACA賞の現地審査作品は3点で、今治地区火葬場ふうすい苑、原町市民会館アートワークス、横浜市みなとみらい線である。

横浜市みなとみらい線は中華街までの東横線の延伸に基づき新しく建設された個性的な駅空間の提案である。

現代日本を代表する建築家を起用し、駅の個性化・差別化を実現しイメージの商業的にも成功しているといえよう。

横浜の歴史的な町の記憶をさまざまな形で表出した駅がつくられており、街並みとデザインの融合が地下空間で実現している。複数の地下鉄駅、デザインとデザインプロデュースの好ましい関係等の総合性からAACA特別賞が贈られた。

原町市民文化会館のアートワークスは市民参加型として極めてユニークで、また地域性を表現している点でも、レベルは高いと評価された。

今治地区火葬場ふうすい苑は火葬場という室は美術館のように明るい空間に提案している点が新鮮であり、また美術作品群と建築との関係も優れている。

最終的にふうすい苑に AACA賞を、原町市民文化会館アートワークスに AACA奨励賞を授与することとした。

入選作品としてアクアマリンふくしま、笠間芸術の森公園、ミュザ川崎アートワークが挙げられた。審査員多数の支持は得られなかったが、特長ある作品として推薦された。

今年の応募作品は全体的に高いレベルといえる。応募者の皆様方に敬意を表したい。

<芦原義信賞>

本年の芦原義信賞への応募は16件であった。3回目を迎えて徐々に応募作品が増えているのはうれしい限りである。

芦原義信賞は建築と美術工芸との融合する作品の中でも、AACA賞に対し新人賞的な位置に属している。

今年は応募パネルを各審査員入念に読み込み議論、投票、そして議論を経て、現地審査対象作品として3点、入選作品として3点を選んだ。

現地審査対象となった3点は安曇野高橋節郎記念美術館、京都暁星高校、そして新宿御苑トイレ増築である。

新宿御苑トイレ増築は応募パネルでは比較的高い評価を得た。旧御苑トイレの躯体屋根を残し、一部改変して増築するという、その過程が地球環境の建築の長寿命化という方向性に、その立地からして極めて有意義であることを評価されたものである。伐採せざるを得なかったスタジイを加したルーバー等は好感を与えてくれたが、男女別のサインとしてのカエデ葉の形態をちりばめたグラフィックアートワークのレベルはあまり高くない。全体的なレベルは審査員の期待に答えられているとは言えず、入選にとどまった。

京都暁星高校は地域の環境に配慮し、好ましい建築景観をつくり出していると、審査員より高い評価を得た。

ディテールのにもローコストであることを逆に極めて抑制し、かつゆきとどいた工夫がなされている。

もともと火力発電所があった場所を緑豊かな学びの環境に再生している。本賞を得た高橋節郎記念美術館と最後まで審査員会で議論され、争った。

高橋節郎記念美術館も街並み形成、あるいは地域文化の継承性という点で高く評価された。

総合的にみて高橋節郎記念美術館に芦原義信賞を、京都暁星高校に奨励賞を授与することとした。

入選は 御苑トイレの他、国立トラंकルーム、Larvin Boutique Ginza、青山学院大学相模原キャンパスである。

それぞれ個性的でシャープな提案がなされていることが審査員の共感を得た。



表 彰 式

第14回AACCA賞

aaca

日本建築美術工芸協会

2005春-4

＜第14回AACCA賞＞ 今治地区火葬場 ふうすい苑

ふうすい苑の敷地は市街の後背地となる墓地のある丘のほぼ頂部にある。炉をバックに大きくのびる庇が特徴的であり、白を基調とした明るくのびやかな内部空間を形成している。それは従来の葬祭場としてのプロトタイプの空間とは異なり、死者との別れの空間を明るく、炉前ホールを美しく小さな水面によって浮きだたせ、しかしながら静謐な雰囲気を感じ出している。田中信太郎氏の作品をはじめ、さまざまなアートワークが建築空間の無機性に焦点と彩りをそえている。新しい葬祭場の空間として、また建築と美術の融合の場として高く評価できる。惜しむらくはアプローチの道路である。土木的な擁壁がもっと環境美学的な処理がなされていればとおしまれるが、総合的に本年の応募作品の中では最高の作品として位置づけられた。

審査委員長 仙田 満



全景



エントランスホール



アートワーク

第14回AACAA賞

aaca

日本建築美術工芸協会

2005春-5

＜第14回AACAA賞特別賞＞ みなとみらい線：街との一体化を図った駅空間・デザイン

さまざまな人々が出会い行き交う駅の空間は、公共空間として大きな役割を担っています。駅の機能が新しい時代の最先端であることはもちろん、人々が地下空間の駅で迎えられる時に感じる違和感を払拭し、地上に広がるそれぞれの地域性をデザインのモチーフとし取り入れるなど、都市的な環境も十分に考慮されています。それぞれの駅を異なる計画者によって質の高いデザインが進められていますが、トータルにコントロールしながら個性を持たせるといった優れた計画手法の成果を、利用者である一人一人が感じている事だと思います。土木・都市・建築のそれぞれの分野が協力することによって生み出されたこのたびの計画は、私達の日常生活の豊かさを生み出す上でこれから多くの公共施設の計画に影響を与える事を願います。

ゲスト審査委員 工藤和美（東洋大学教授・シーラカンズK&H代表取締役）



吹抜（馬車道駅）



地下1階道路横断施設（新高島駅）

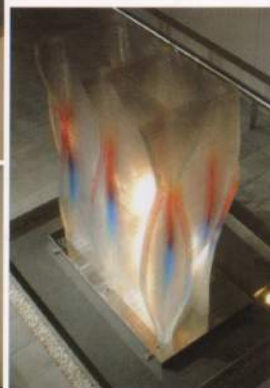
＜第14回AACAA賞奨励賞＞ 原町市民文化会館 建築空間におけるアートワークス

人口5万人との「相馬野馬追」という千年続く伝統行事を守り続けている町の文化活動拠点としての文化会館は、白い50角タイルで覆われた清楚な建築である。コンクリート造の大ホールと鉄骨造のエントランス小ホールが分節化され、角地の特性を活かしながら、ロビーや市民活動が町の風景となるよう計画されている。アートホールと呼ばれるエントランスホールにはこの土地の記憶を転写させた造形が大壁面として形成され、野馬追風の「御旗」がバナーとして白い吹き抜けの空間に楽しい生命力を与えている。分節化によって生まれた内庭にはアクリルの彫刻、大ホール入口には民謡の譜面をデザインしたダイクロイックガラスによる壁面照明等、建築空間の要所にアートワークが活かされている。しかもその選定、制作過程がアート委員会や市民とのワークショップ等によって決定されてきたことは高く評価される。

審査委員長 仙田 満



相馬野馬追



第3回芦原義信賞

aaca

日本建築美術工芸協会

2005春-6

＜第3回芦原義信賞＞ 安曇野高橋節郎記念美術館

安曇野は初冬の景色をみせる。田は稲の切り株が残り、常念岳を初め穂高の街から見る北アルプスは峯々に雪をまといつつある。この高橋節郎記念美術館は町道に沿って周辺の農家や作業小屋が点在する風景になじむ様な墨色の水平に伸びる軽やかな軒の重なりが白い壁とガラス壁によって支えられて控えめに建っている。道路と館との間には浅い水を張った2段の池、その道路側には葦が植えこまれていて、その枯色が敷地内に残した松の大本2本とコントラストを極だたせている。館は高橋節郎の作品を展示する部屋は極めて作品と調和する照明とゆったりした空間、それを出ると水庭と石畳と1本の桜、その背景に松の古木と楓、作家の育った環境が3つの倉と萱葺きの母屋がそっくり残されているひっそりとした空間をガラス越しに見渡せる細長いギャラリーに出る。この館のもう一つの目的が自由に出入できるラウンジとメディアフォーラムである。枯れた葦の先に見えるアルプスの山々を望みながら休息できるベンチやパソコンで検索できる資料、美術書の棚等家具も設計者によってデザインされ、更に大型のガラス壁、戸のアルミサッシュも新たに設計されていて、徹底したディテールの統一感による特長のある空間構成と建物内部の中間空気層を使った手法の空調設備まで全てにわたって設計者の姿勢を見ることができる。高橋節郎の生家、樹木の保全をはかりつつ館の造型を周辺環境との調和に重点を置いたこの作品の価値を認めたいと思った。

審査委員 松本哲夫（インテリア・アーキテクト）



安曇野の樹木と清純な沸水を積極的に取り入れ、美術館の背景に活かす



ギャラリーより水庭・石庭を望む 桜の古木をそのまま残している



展示室内部
漆作品の保護のため通常よりも、照度・色温度を落とした照明計画としている



美術館全景
古民家が群として残っているのは安曇野でもめずらしい風景である

第3回芦原義信賞

aaca

日本建築美術工芸協会

2005春-7

＜芦原義信賞奨励賞＞ 聖ヨゼフ学園 京都暁星高等学校

木造平屋建切妻五棟の、こじんまりした学校建築だ。構造には米松を用い、外壁、板張り部分の内壁、天井は全て地元京都府産の杉の間伐材の小幅板で、屋根はコロニアル。しかも、サッシは住宅用の量産品を利用し、建てたのは地元の大工さん。冷暖房の設備はなく、断熱材を十分に使って、厳冬期は石油ストーブでしのぐ省エネ・環境配慮型の徹底したローコスト建築で、坪単価は30万円強だという。宮津湾を見おろす国道沿いのこの校舎は関西電力の火力発電所跡地に立つ。解体した古い建物の廃材を排水層の砕石に使う再生資源としたグラウンドは透水性がよく、雨上がりに効率よく使用できる。山並みの緑に囲まれた景観を損なわず、周辺の漁村のたたずまいと同じ切妻の校舎五棟が違和感なく地域に溶け込んでいる。回廊でつながれた校舎が囲む、やや傾斜させた芝生の中庭と外の自然との呼吸が合っただけ心地よい空間が作り出されている。プランの段階から現場の先生たちの意見や希望を聞き、それを反映させた素朴で暖か味のある教室、道場にもステージにも使えるフレキシブルな小講堂の工夫や、“自然空調”など、限られた予算を逆手にとった設計は見事だ。なによりも、その創意が土地の景観の一体となって引き立てる働きをしたのがいい。

審査委員 加藤貞雄（美術評論）



「人と自然が向き合う中庭」を、分棟化された校舎と回廊が囲んでいる



木のぬくもりを感じる教室内部



小聖堂より中庭を望む



皮革造形美術グループ 第17回 ド・オーロ展

会場 田中八重洲画廊 〒103-0028 中央区八重洲1-5-15 田中八重洲ビル1F
Tel 03-3271-7026

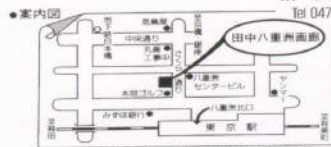
会期 平成17年6月15日(水)~20日(月) 11:00~19:00 (最終日16:00)

大久保 婦久子	酒井 昭子	辺牟木 広子
猪俣 伊治郎	坂本 采季香	松浦 恵子
粕谷 美智子	高野 清子	宗内 徳子
鴨川 康子	遠山 和子	村岡 香代子
川口 知子	中島 妙子	山崎 輝子
木部 美枝	中野 つゆ子	山下 圭子
小泉 秀子	村茂 子	山本 朝子
後藤 ユリ子	藤城 隆子	渡辺 登志子

ド・オーロ事務所 〒273-0047 船橋市藤原3-32-11

猪俣 伊治郎

Tel 047-438-9467



※神田駅西口の八重洲北口を出て徒歩3分です。



会員投稿記事 募集中

会員の皆様の

作品の紹介 活動の報告

展覧会 個展等の ご案内

企業の広告 出品展等のご案内

を会報に掲載いたします。

詳しくは 事務局にご相談下さい。

会報について

新らしい会報へのご意見 ご希望を
お寄せください。(会報委員会)

発行 社団法人 日本建築美術工芸協会

〒108-0014

東京都港区芝5-26-20 建築会館6階

Tel 03-3457-7998

Fax 03-3457-1598

Url <http://www.aacajp.com>

E-mail info@aacajp.com

編集 会報委員会

石田 真人 垣内 泰三 北村 孝昭

瀬川 秀之 竹生田 正 中村 弘子

長谷川 亨 本田 宣之 山崎 輝子

事務局

伊藤 留雄

aaca

制作協力 中栄印刷株式会社